

須賀川市赤十字奉仕団

須賀川市赤十字奉仕団					
2023年度					
順	活動種別	内容	実施	参加人数	
1	1. 防災訓練 (1回)	43A	「テラフォー」に避難した被災者(仮設居住)	須賀川市 消防団第1分団 須賀川市 消防団第2分団 須賀川市 消防団第3分団 須賀川市 消防団第4分団 須賀川市 消防団第5分団	30A
2	2. 防災訓練 (1回)	19A	須賀川市 須賀川市 須賀川市	須賀川市 須賀川市 須賀川市	30A
3	3. 防災訓練 (1回)	22A	須賀川市 須賀川市 須賀川市	須賀川市 須賀川市 須賀川市	30A
4	4. 防災訓練 (1回)	43A	須賀川市 須賀川市 須賀川市	須賀川市 須賀川市 須賀川市	30A
5	5. 防災訓練 (1回)	31A	須賀川市 須賀川市 須賀川市	須賀川市 須賀川市 須賀川市	30A
2022年度					
順	活動種別	内容	実施	参加人数	
1	1. 防災訓練 (1回)	32A	花いっぱい運動 花いっぱい運動	須賀川市 須賀川市	30A
2	2. 防災訓練 (1回)	22A	花いっぱい運動 花いっぱい運動	須賀川市 須賀川市	30A
3	3. 防災訓練 (1回)	11A	花いっぱい運動 花いっぱい運動	須賀川市 須賀川市	30A
2021年度					
順	活動種別	内容	実施	参加人数	
1	1. 防災訓練 (1回)	22A	花いっぱい運動 花いっぱい運動	須賀川市 須賀川市	30A
2	2. 防災訓練 (1回)	11A	花いっぱい運動 花いっぱい運動	須賀川市 須賀川市	30A
3	3. 防災訓練 (1回)	43A	花いっぱい運動 花いっぱい運動	須賀川市 須賀川市	30A

[活動の実績はこちら](#)



★いつから活動されていますか？

- 2011年3月12日より活動開始。

★対象はどちらの地域の方ですか？

- 須賀川市民、相双地区の住民の皆さん。

★どんな活動をされていますか？

- 避難所での炊き出しから活動を開始し、生活用品等のチャリティバザーを実施。市、日赤等に寄付。
- 台風で仮設住宅が床上浸水の被害に遭い、片付けの支援を行った。水を含んだカーペット等の搬出、掃除には団員のご主人達にも声かけし、活動に当たった。
- その後の仮設住宅の支援は、プランターに花植え、七夕祭り、ひな祭り、クリスマス会等の各種行事の中で、ぼた餅、ちらし寿し、冷やし中華、カレー等を一緒に作り、昼食を囲み交流した。

★活動を始める際、どこでだれと協議しましたか(どなたの発案ですか)？

- 震災当初、対策本部に委員長が出向き、活動の許可を得る。市からの依頼は避難所入居者の炊き出し。役員数人と協議後、団員宅を訪問し人集め(電話が通じなかった)。[炊き出し⇒24日間]。その後、被災者支援活動は仮設支援がメインとなり、奉仕団役員会案を基に社協の仮設相談員と協議し、活動。

★被災された方々の声はどうでしたか？

- ぼた餅を一緒に作った際、食べない方がいたので声をかけると、「亡くなった家内にあげたいので持って帰る」と言っておられた事がとても印象に残っている。
- 復興住宅に入れば、また新しい人とコミュニティーを作らなくてはならない。お友達ができずに孤立している事を聞いた。
- 生活支援相談員の話では、復興住宅に入られている方々は本当に孤独であるとのこと、やっと仮設住宅で顔見知りになった人達とうまく生活できるようになったが、復興住宅は、あちらこちらから集まって来たという事もあり、付き合いがうまく出来ず悩んでいるとの話もよく聞く。
- 仮設住宅であれば引越しを考えることが出来るが、復興住宅となれば一生の付き合いとなるので、お互いに気を使い、以前よりも引きこもりがちになるという。
- ご近所づきあいに変な気を使うという話が仮設住宅にいる人にも聞こえてくるので、現在仮設住宅に入居されている方の中にも決断できない人もいる、という話をよく聞くようになった。
- 被災当初、市内はもとより全国から支えられていると実感したが、最近(平成26年)日赤位かな…。水害時は引越し、後片付け等本当に助かったと言って頂いた。

★支援活動において良かったことは何かありますか？

- 支援活動時、日赤(本社・支部)より支援をいただいたのでこんなに長い期間続けられたと感謝している。
- 花いっぱい運動の際、仮設住宅住民より「大事に育て、守る」と言っていただけたことが大変嬉しかった。
- 須賀川市赤十字奉仕団の創立25周年があり、その行事の中の「地球のステージ」に、仮設住宅の住民を招待し、復興に向けて気持ちを新たにできたことがとてもよい思い出であり印象深い。
- 何の活動においても、赤十字のワッペンをつけていれば皆さん心を開いてくれた。県支部の方々が常日頃から活動してくれていたから、私達もすぐに受け入れてくれるのだと実感できた。
- 社協で仮設の人達によびかけ、社協バスで送迎する等の協力があり、ありがたかった。

- 復興住宅に入られた方で、新しいコミュニティーに馴染めない方も多いと生活支援相談員より話があり、復興住宅に住んでいる方と仮設住宅住民の方との交流会を開催したところ、双方の心の交流が図られ喜ばれた。

★大変だったこと・困ったこと等ありましたらお聞かせ下さい

- 震災発生時(3月11日)は、どのような支援が必要かはっきりせず困った。現在は、非常時に何をすべきか行政と奉仕団が話し合っている。
- 震災当初、電話での連絡がとれず、炊き出しする人を集める事が大変だった(直接近所の団員宅を訪問したり、地方紙で呼びかけたりした)。

★支援活動前に知っていれば良かったことは何かありますか？

- 震災前から行政担当部(事務局)と非常時の対応について話し合っておけば良かった。震災後の水害発生時、避難所に行くと直ぐ支援活動の指示があった。社協から、床上浸水した仮設住宅の手伝い要請があった。

★今後の支援活動において何か新しい取組み等がありましたらお聞かせ下さい

- 仮設住宅から復興住宅に移った方々の心のケアが大切と考えている。
- 防災に対する意識が風化しないように日頃から研修や訓練を重ね、防災意識を持ち続けるよう伝えていきたい。
- 赤十字奉仕団としてお互いの役割を踏まえ、地域及び関係機関と連携し新しい支援の形を作っていきたい。

★支援者(奉仕団や他団体)の「こころのケア」の必要性を感じますか？

- もちろんである。何かをやるうとするときには意識付けが大事であるので、団員の士気を高めるために委員長は役員会で意見を聞き、その都度方針を決めている。
- 健康教室(こころのケアを含む)等を開いて、ストレスをかかえず、団員一人一人が元気に活動出来るよう努めている。

